

ウェイト付けを行った項目

大項目	中期計画	18年度計画	ウェイト	19年度計画	ウェイト	ウェイト付けの理由
II	(130) 理事長を補佐する理事（経営担当理事及び産学官連携・社会貢献担当理事）への民間企業出身者等の登用により、民間の経営センスを大学経営に積極的に取り入れ、財政基盤の安定強化及び外部資金等の自己収入の拡充など、全学的な経営戦略を確立する。	経営担当理事及び産学官連携・社会貢献担当理事を中心に、外部資金等の自己収入の拡充など財政基盤の安定強化に向け、引き続き全学的視点にたった経営戦略を推進する。	2	経営担当理事及び産学官連携・社会貢献担当理事を中心に、外部資金等の自己収入の拡充など財政基盤の安定強化に向け、引き続き全学的視点にたった経営戦略を推進する。	2	業務運営の改善及び効率化を図るために、理事長のリーダーシップを発揮できる運営体制や民間的発想の経営手法の導入など全学的視点に立った経営戦略のもとに大学運営を行うことは、公立大学法人の最重要の課題であることから、ウェイト付けを行った。
	(139) 適正で効率的な大学業務の執行を図るため、監事のもとに監査業務を行う体制を整備する。	平成17年度に整備した監事の事務補助体制により、適正で効率的な大学業務の執行に努める。	1	平成17年度に整備した監事の事務補助体制により、業務監査及び会計監査を適切に実施する。また、適正な大学業務の執行を図るため、内部監査を充実する。	2	文部科学省から「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」が示されるなど、大学における研究費の適正な執行が強く求められている情勢に対応し、内部監査の充実に重点的に取り組むことは、特に重要であることから、ウェイト付けを行った。
	(145) 平成19年度を目途に総合リハビリテーション学研究科（修士課程）を設置する。	総合リハビリテーション学研究科（修士課程）の平成19年度の開設に向け、準備をすすめる。	2	(年度計画なし)	—	
	(149) 教育研究に従事する教員の職務の特性を踏まえ、柔軟で弾力的な勤務形態が可能となる制度の導入を図る。	教員の職務の特性を踏まえ、裁量労働制の導入について引き続き検討を進める。	1	教員の職務の特性を踏まえた裁量労働制の導入について労働組合等との協議を進め、年度内の実施を目指す。	2	裁量労働制の導入は、労働形態の大きな変更であり、これをスムーズに行うことは公立大学法人の重要項目であることから、ウェイト付けを行った。
III	(166) 高度な学術研究及び産学官連携の推進を図るため、国や地方公共団体の競争的資金（科学研究費及び提案公募型を含む）や民間財団からの研究助成による基礎的研究資金、企業等との共同研究・受託研究による資金、企業からの奨励寄附金など各種の外部研究資金について、各教職員がその獲得に努め、また、産学官連携機構において、シーズ及びニーズの調査やPR活動など獲得のための必要な支援を行う。外部研究資金の獲得額は、平成22年度において法人化前に比して30%の増加を目指す。	各教職員が各種の外部研究資金を獲得できるよう、学内ホームページやメールなどにより、募集情報の周知を図る。また、産学官連携機構において、学内シーズ及び企業ニーズのデータベースを運用するとともに、リエゾンオフィスを通じたマッチング活動を推進する。外部研究資金の獲得額は、法人化前に比して15%の増加を目指す。	2	各教職員が各種の外部研究資金を獲得できるよう、学内ホームページやメールなどにより、募集情報の周知を図るとともに、産学官連携機構において、学内シーズ及び企業ニーズのデータベースを運用する。また、リエゾンオフィスを通じたマッチング活動を推進するとともに、管理法人方式による受託研究にも取り組む。外部研究資金の獲得額は、法人化前に比して30%の増加を目指す。	2	安定した経営基盤の下に自立的経営を行うために、大学の財務に重要な影響を及ぼす外部資金の獲得を強化することは、公立大学法人の最重要の課題であることから、ウェイト付けを行った。
	(167) 外部研究資金の受入れに際し間接経費を徴収し、この内光熱水費及び消費税を除いた分を産学官連携費として、知的財産管理や産学官連携経費の一部に充当する。また、さらなる外部研究資金獲得に対する教員のインセンティブ保持のため、産学官連携費の用途について平成17年度中に検討する。	外部研究資金の受入れに際し間接経費を徴収し、この内光熱水費及び消費税を除いた分を産学官連携費として、知的財産管理や産学官連携経費に充当する。また、産学官連携費を活用した教員のインセンティブ保持方策の実施により、外部研究資金獲得の強化に努める。	2	外部研究資金の受入れに際し間接経費を徴収し、この内光熱水費及び消費税を除いた分を産学官連携費として、知的財産管理や産学官連携経費に充当するとともに、産学官連携費を活用した教員のインセンティブ保持方策の実施により、外部研究資金獲得の強化に努める。	2	外部資金の獲得は、公立大学法人の最重要課題であり、獲得強化に向けた取組みが特に重要であることから、ウェイト付けを行った。
IV	(182) 部局及び全学単位で、定期的かつ継続的な自己点検を行う。	19年度実施予定の全学的な方針に基づく自己点検・評価に向けて、準備を進める。	1	「大阪府立大学自己点検・評価実施要領」に基づき、部局及び全学単位で自己点検・評価を実施する。	2	法で定められた自己点検・評価を計画的に行うことは、大学としての最重要事項であることから、ウェイト付けを行った。
	(183) 教育研究のみならず、社会貢献や管理運営などに関して、多面的な評価を実施する。	19年度実施予定の多面的な評価項目を設定した自己点検・評価に向けて、準備を進める。	1	教育、研究のみならず、社会貢献や大学運営などに関する自己点検・評価を実施する。	2	法で定められた自己点検・評価を計画的に行うことは、大学としての最重要事項であることから、ウェイト付けを行った。

V	(192) キャンパスプランに基づき、総合教育研究機構棟を整備する。	総合教育研究機構棟の整備に着手する。	2	総合教育研究棟を整備する。	2	高度研究型大学に相応しい教育研究環境を計画的に整備することは、大学として最重要事項であることから、ウエイト付けを行った。
	(193) キャンパスプランに基づき、老朽・狭あい化が進んでいる学舎の計画的な整備を行うとともに、大学が目指す高度研究型大学にふさわしい教育研究環境を確保するため、平成17年度の出来るだけ早い時期に、学舎の整備内容を確定の上、実現を図る。	キャンパスプランの見直しを行うとともに、りんくう、中百舌鳥両キャンパスにおける施設整備を進める。	2	キャンパスプランに基づき、りんくう・中百舌鳥両キャンパスにおける施設整備を進める。	2	高度研究型大学に相応しい教育研究環境を計画的に整備することは、大学として最重要事項であることから、ウエイト付けを行った。